

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(6月3日～6月9日)

2024年6月13日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ルカシェンコ大統領のモンゴル公式訪問(6月1日～4日)
- エスワティニとの外交関係樹立(6月7日)

【ルカシェンコ大統領動静】

●モンゴル公式訪問

- ・両国首脳会談では、貿易・経済分野における連携拡大の可能性、ベラルーシ製食料品や工業製品等のモンゴルへの輸出、農エコンプレクスを通じた両国共同での取組等につき協議。
 - ・両国は、友好関係と協力につき関する条約をはじめ、14本の成果文書に署名。
 - ・ルカシェンコ大統領は首脳会談後の記者会見において、モンゴルのメディアではベラルーシがロシアによるウクライナ侵略戦争に荷担していることが否定的な報じられていることにつき、チンギス・ハンを例に挙げつつ反論。
 - ・その他、ベラルーシ・モンゴル・ビジネスフォーラムや、外務・内務・非常事態・教育・産業等の大臣レベルでの二国間会談も行われた。
- (6月1日～4日 大統領府)

【外交】

●リトアニアの税関は、EU諸国からベラルーシへの自動車の輸出に関する制限を強化

- ・6月4日以降、EU圏内で購入した自動車をリトアニア領内からベラルーシへ輸出できるのは、その所有者のみとなる。また、国際的な制裁による制限に違反していないことを示す追加書類の提出が義務付けられる。
- (6月3日「ゼルカロ(鏡)」)

●ポーランドは、ベラルーシの塩製造企業「モズィリソリ」に対する制裁を導入

- ・ポーランドの食塩製造企業は、自国の製品と競合するものであるとして、ベラルーシからの食塩の輸入禁

止を要求していた。

- ・ベラルーシ製食塩及び岩塩は、EUの制裁対象ではない。
 - ・2022年にベラルーシからEUへ輸出された食塩は約1,000万ユーロ、2021年は約2,200万ユーロであった。
- (6月3日「ゼルカロ(鏡)」)

●エスワティニとの外交関係樹立

- ・6月4日、プレトリアにて、ベラルーシとエスワティニの外交関係樹立に係る共同コミュニケがベールィ駐南アフリカ・ベラルーシ大使と、クネネ駐南アフリカ・エスワティニ高等弁務官によって署名された。
 - ・今次署名式は、政治対話、貿易及び経済協力の促進ならびに教育、医療、科学技術及び文化交流の分野における関係構築等、両国間のあらゆる関係を発展させる機会を提供するものである。
 - ・既に特定の分野において、両国間での協力が進んでいる。ベラルーシ・エスワティニ関係の法的枠組みを策定することについても相互の関心もある。
- (6月7日 外務省)

●リトアニアによる新たな制限に対するベラルーシ外務省声明

- リトアニアは、6月3日以降、生きた動物、肉及び内臓、魚、乳製品、卵、天然蜂蜜、非動物由来製品、植物、野菜、果物、コーヒー、スパイス、穀物、油、飲料、タバコ等24品群のベラルーシ製及びロシア製商品計2,800品目の輸入を禁止。これに対するベラルーシ外務省の声明は以下のとおり。
- ・ベラルーシ側は、6月3日の新たな制限の発効後、リトアニア税関職員がベラルーシ、リトアニア及び第三国の国民から食料品、医薬品、その他の個人使用目

的の商品を押収する行為について、重大な懸念を表明する。

・リトアニア政府が一般市民に科した制限の影響について、ベラルーシ側が直ちに送った口上書には、予想通り返答はなかった。

・リトアニア政府に対し、自国民を含め、通常の人間的条件のもとで移動の自由の権利を有する一般市民を、導入された措置によって侮辱するという恥ずべき行為を放棄するよう強く求める。

(6月7日 外務省)

【内政】

●国連人権理事会のベラルーシ担当特別報告者による人権状況の報告

マリン・ベラルーシ担当特別報告者による2023年4月1日から2024年3月31日までのベラルーシにおける人権状況の報告書の概要は以下のとおり。

・服役中の政治犯少なくとも2人が死亡した。

・刑期を終えた元政治犯に対する警察の嫌がらせが行われている。政治的犯罪を予防することを名目とし、治安関係者が毎日のように元政治犯の家を訪れ、毎週警察に呼び出すことで、私生活に恣意的に干渉している。

・ベラルーシ語が政治的に忠誠でないことの象徴とみなされることが多くなってきており、国家機関や教育、文化、メディアなどの分野では、指導部からの命令や差別の恐れから、ベラルーシ語がロシア語に置き換えられている。収容所では、ベラルーシ語の文献は没収され、ベラルーシ語を話す囚人はより厳しく扱われている。

(6月4日 国連人道問題調整事務所)

●6月10日現在の政治犯の数は1,396人

(6月10日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

【軍事・安全保障】

●ベラルーシ・ポーランド国境における不法移民による襲撃で負傷したポーランド側警備兵の死亡

・6月6日、ポーランド軍参謀本部は、ベラルーシ・ポーランド国境で移民にナイフで刺された兵士がワルシ

ャワで死亡した旨発表。

・これを受けて、同日、ポーランド外務省は、ベラルーシに対して同兵士を殺害した人物の特定と身柄引渡しを要求。これに対し、グラス・ベラルーシ外務省報道官は、同日、「ミンスクで検討する。当然、このような悲劇が起こらないよう、正常な国境間のコンタクトを再開する必要がある」と強調し、法執行機関同士連携の再開は、完全なる再開の形でのみ可能である旨強調。

・また、ポーランドは、7日以降、国境で勤務する警官に対し、個人用の武器を携行することを義務づけ。

・ベラルーシ・ポーランド国境におけるポーランド側兵士に対する襲撃事件は、5月28日には立て続けに3件発生しており、うち2件はナイフによる攻撃で、1件は割れた瓶による攻撃であった。5月31日にも、さらに2人のポーランドの警備兵が移民との衝突時に負傷しており、6月4日にも、別のポーランドの警備兵が頭蓋骨を骨折している。

(6月6日 「ゼルカロ(鏡)」)

●「ゼルカロ(鏡)」によるポドリャク・ウクライナ大統領府顧問へのインタビュー

・ポドリャク・ウクライナ大統領府顧問は、ベラルーシは今日、基本的にウクライナ侵略戦争に参加しておらず、拠点としても使われていないことから、現時点でウクライナがベラルーシを標的とする可能性を否定。

・プーチン露大統領による核による脅しはロシア国内でのみ効果のあるものであり、ベラルーシは、プーチン露大統領があらゆる脅威を強調するための手段として利用されているに過ぎないと強調。

(6月6日 「ゼルカロ(鏡)」)

●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

(6月3日～6月9日)

・リトアニア国境警備局は少なくとも5人を阻止。

・ラトビア国境警備隊は少なくとも81人を阻止。

・ポーランド国境警備隊は少なくとも1,280人を阻止。

(6月4日～6月10日 Pozirk)

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表の動向

・6月5日～7日、ルクセンブルクを訪問。ベッテル副首相兼外務・対外通商大臣兼開発協力・人道問題担当大臣と会談し、ベラルーシ人の査証の問題や独立系メディア、ベラルーシの市民社会への支援等につき協議。また、国際会議「Luxemburg Solutions」にて演説。

(6月10日 チハノフスカヤ氏公式サイト)

(了)